

平成25年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

しいたけ栽培技術の高度化と多様な販売ルートの開拓

○氏名又は名称 加藤 至誠・加藤 美恵子

○所在地 大分県竹田市

○出品財産物（乾椎茸）

○受賞理由

・地域の概要

竹田市久住町は大分県の南西部に位置し、冷涼な気象条件を利用した畜産、水稻、高冷地野菜等に加え、古くから、しいたけ栽培が盛んな地域であり、農業総産出額約24億円のうち、しいたけの生産額は2億円である。

久住町のクヌギ・コナラ林率は17%であり、大分県平均の12%を大きく上回っている。現在、地域のしいたけ栽培に必要な原木は、ほぼ全量が地域内で確保できている。概ね15年伐期で循環利用されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

ホダ木の1年起こしによる優良ホダ木の育成、1カ所に集約した林内ホダ場での徹底した発生管理、自然力を活かした高度な栽培技術で高単価・高収量を実現している。

生産量の3分の2を農協組織を通じた出荷、3分の1を関東を中心に沖縄から北海道まで全国の消費者へ直接販売している。市場販売の平均単価が低迷する中で、直接販売額は農協組織を通じた出荷額を上回る収入源となっている。

・受賞者の特色

(1) 1年起こしによる良質ホダ木の育成

接種後2年目の秋まで原木を伐採した林野に伏せ込む2年起こしが大分県では一般的であるが、氏は1年目でホダ起こしを行っている。

1年起こしの利点は、伏せ込み中の害菌被害の軽減、2年目はホダ場内での散水管理によるホダ化率の向上、ホダ起こし労務の分散、秋出系品種の発生操作への集中などである。

(2) ホダ場環境の整備

高品質なしいたけ栽培技術の一つにホダ場の環境整備がある。自宅隣接地にスギと落葉広葉樹を混植し、しいたけの発芽や生長に必要な明るさや温湿度環境を整え、現在の経営規模に必要なホダ場2haを1カ所に集約、また、作業システムの効率化を図るため、林内作業路網を作設した。

更に、従来の自然条件下の発生に任せた不安定な「採るしいたけ栽培」から「作るしいたけ栽培」へ転換を図るため、発生の重要な要因は水分管理にあることに着目し、他に先駆け、昭和42年に散水施設を導入した。徹底した水分管理を行うことで、1駒当たりの収穫量は県平均8.1gに対して氏は10.8gと高い収量をあげている。

(3) 直接販売への取り組み

生産したしいたけを直接、消費者へ届けたいという思いと一層の経営安定のため、農協組織への全量出荷が一般的な時代から直接販売に取り組んでいる。

現在では、日本全国の消費者から注文が入り、販売実績が安定している直接販売は、市場販売価格が低迷する中で経営を支えている。

・普及性と今後の発展方向

長年の経験と知識に加えて創意工夫を重ね、高品質・高収穫の生産を行うと共に直販による経営の向上を実現している。

また、県内外から多数訪れる視察等に対しては、栽培技術を積極的に教示し、多くの生産者へ技術普及がされ、しいたけ産業の振興に大きく寄与している。